

# 千西一遇

# 速報

発行2018年7月12日  
上田西高校新聞委員会  
編集局長 下形亮人

写真=宮島純夏  
文=小松鈴音・下谷梓  
写真加工=羽毛田莉歩



## 上田西8-2長野商業

# 塚田復活



←3打点の活躍でチームを勝利に導いた4番塚田純平

全国高等学校野球選手権記念大会(水)に各地で行われ、上田西高校硬式野球部は県営上田野球場で長野商業高校と対戦した。4番塚田純平、主将小井出彪彦などの活躍で上田西は終始試合を優位に進め、長野商業の反撃を2点で抑えた。8対2で見事に勝利を収めた上田西は梓川高校対夢科高校の勝者と14日(土)12時から上田県営球場で対戦する。

「チャンスで打つ」強い気持ちで打席へ

苦しんでいた上田西の4番がついに復活した。春季大会では快音が聞かれなかった塚田純平がこの試合では3打点の活躍を見せ、チームを勝利に導いた。

「フォームを改善してみたり実践練習でしっかり打ってきたし振る量も増やしてきた」と話す塚田。甲子園出場に向けて、4番の復活は大きな収穫だ。「内容的には満足していないがチャンスで打ててほしい」と話す塚田は、主砲の次戦以降の活躍に注目が集まる。

↓6回から2番手として登板した竹花皓平は上田西唯一の左腕。これまで公式戦での登板はなかったが、緩急をつけるピッチングで長野商業打線を無失点で抑えた。計算できる投手の確立は大きな収穫であるといえよう。



見つけた課題克服し次戦へ

試合は上田西の快勝という結果になったが、監督、主将は内容に満足していない。「8回コールドで終わらなければいけなかった」と原監督が話すと、小井出主将からは許した内野安打の数、外野手の球際についての反省が挙げられた。「そういう練習でできることから一つ一つ潰していかなければ勝てない」と強豪校との試合を見据える小井出主将は話した。

### 横尾、粘って5回無失点

#### 2番手竹花も好投見せる

先発したエース横尾虎之介は序盤から何度もピンチを迎えた。「調子は良くなかった」と本人も話すように固さが見えた立ち上がりだった。先制点をもたらした直後の2回裏には一死、三塁のピンチを招く。しかし後続を遊ゴロ、三振で打ち取りピンチを切り抜けた。続く3回裏にも無死一、二塁のピンチを迎えるが、最後は併殺で切り抜けた。粘

### 小井出、リード広げる2点本塁打

上田西の主将がチームに勢いをもたらす2点本塁打を放った。どんな形でも勝てばいいと考えていた主将の小井出彪彦。4点リードの4回の表、四球で出塁したランナーを1塁に置いて、打順が回ってきた。「次の打者に繋ぐ気持ちで打席に入った」という小井出は、長野商業のエース戸谷が投じた2球目を引っ張ると、ボールはぐんぐん伸び右翼ポール直撃の2点本塁打となった。貴重な追加点となった。

本塁打について小井出は「狙っていたわけではないが本塁打になってよかった」と嬉しそうに話した。この2点本塁打により、上田西は6対0と長野商業とのリードをさらに広めた。「交流戦の勝利を受け継いでしっかりと勝てよかったです」と話す小井出は「謙虚に、感謝の気持ちを忘れずに大事に戦っ



2点本塁打を放った主将の小井出彪彦

りのピッチングで5回を無失点に抑えた横尾は「気持ちで何とか乗り越えた」と話した。スタメンに多くの左打者を並べた長野商業打線へは、得意のツーチームとインコースのストリートで勝負したそうだが、頼れるエースは次戦に向けて「次も0で抑えられるように頑張りたい」と意気込んだ。

「5点差で横尾から竹花にスイッチ」と原監督が想定した展開となったこの試合。6回裏から登板した左腕竹花皓平は、公式戦初登板ながらも落ち着いてピッチングで長野商業打線に得意を与えなかった。

優勝のためにはエースの負担を減らすためにも2番手以降の投手による継投が重要となる。失点した宮尾も含め投手陣のさらなる奮起が期待される。